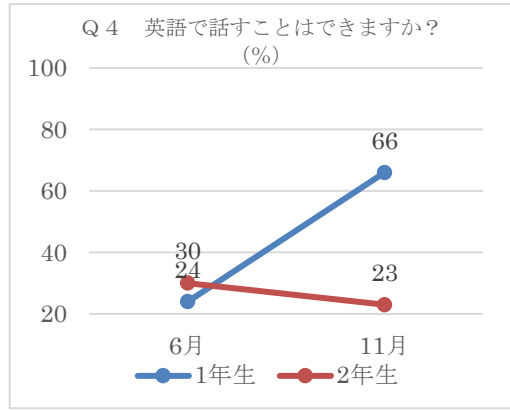
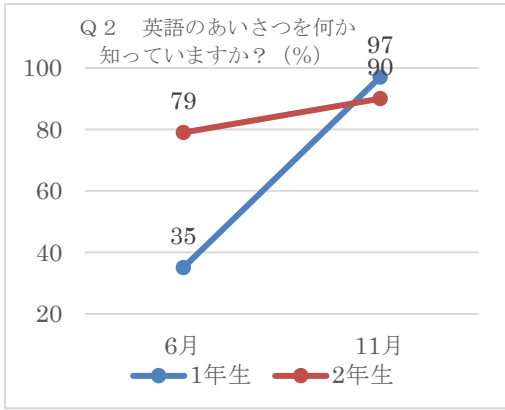


石原小学校（1、2年生）

※1年生89名、2年生66名

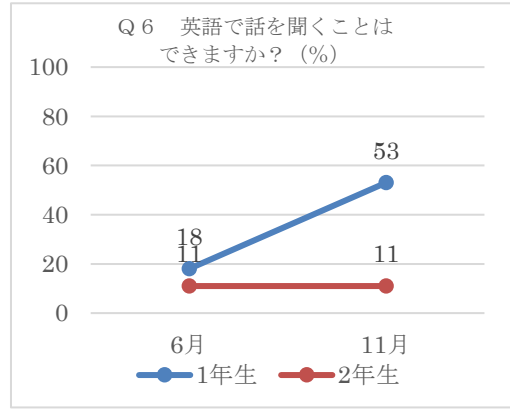
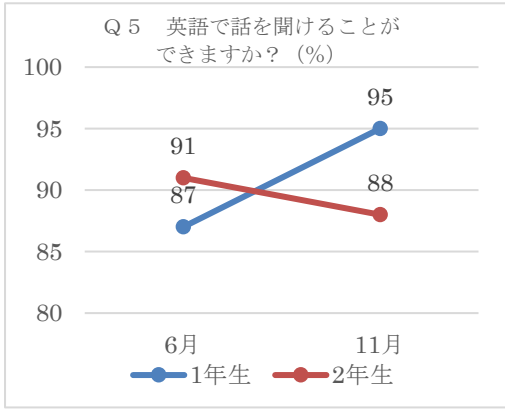
①知識・技能

<Q 2、Q 4について>

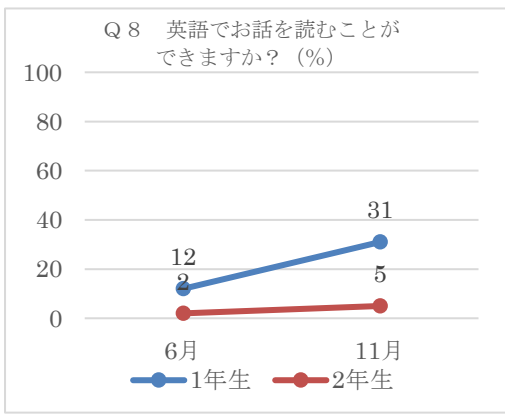


Q 2に対して、肯定的な回答が増えている。1年生は外国語の学習であいさつができるようになったことが大きな要因の一つと考えられる。一方、Q 4に対して、1年生では肯定的な回答が増加しているものの、2年生では減少してしまっている。

<Q 5、Q 6、Q 8について>



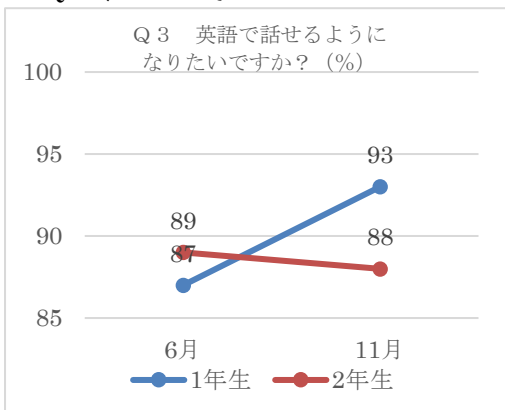
Q 5に対しては、6月と比較して大きな差はなかった。Q 6に対して、1年生では初めての外国語の学習でできるようになったと感じられているのではないかと考える。2年生では6月との違いは見られない。



Q 8に対しては、1年生では肯定的な回答の数が増加している。1年生から4年生では読むことを中心としては取り上げないので、外国語の学習を通して外国語ができるようになってきているという実感が表れているのではないかと考える。

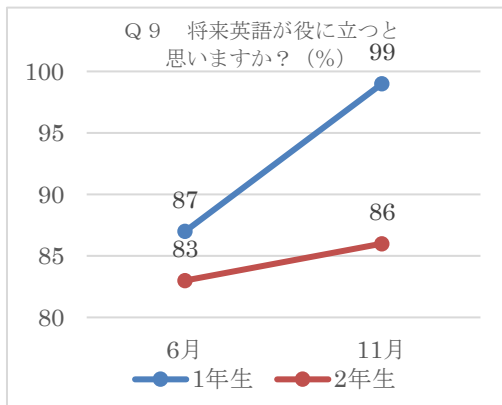
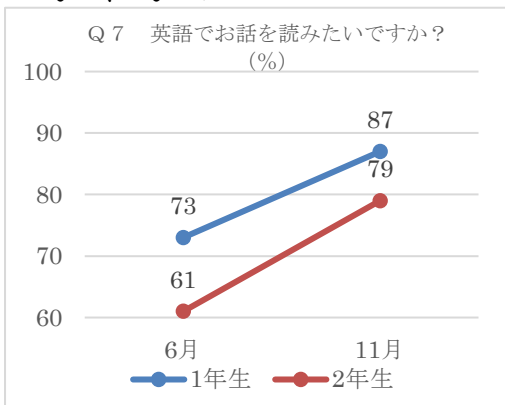
②学習に向かう力・人間性

<Q 3について>



Q 3に対しては、大きな差は見られなかった。6月の時点で肯定的な回答が多かったことから、外国語の学習を通して、話すことに対する意欲を維持できていると考えられる。

<Q 7、Q 9について>



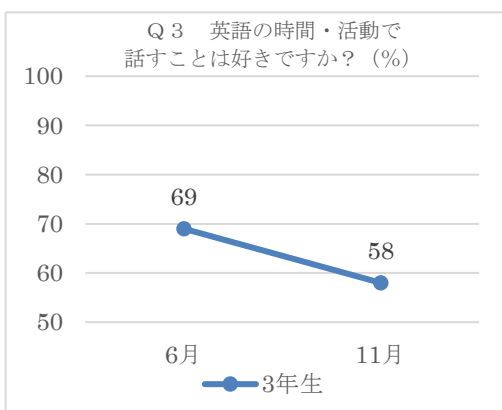
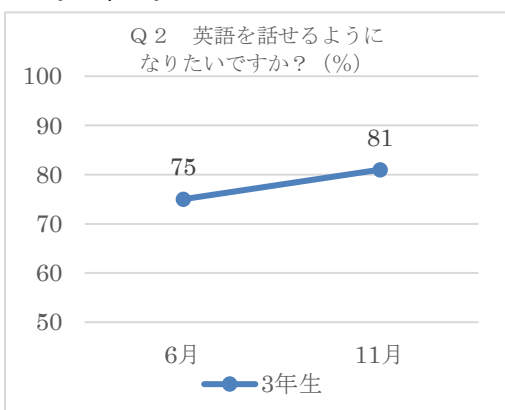
Q 7に対して、肯定的な回答が増加している。2年生では、Q 8と比較して意欲の面では大きく増加している。Q 9に対して、多くの児童が肯定的な回答をしている。「将来英語が役に立つ」と思うことは、主体的に取り組むために重要だと考える。

石原小学校（3年生）

※3年生69名

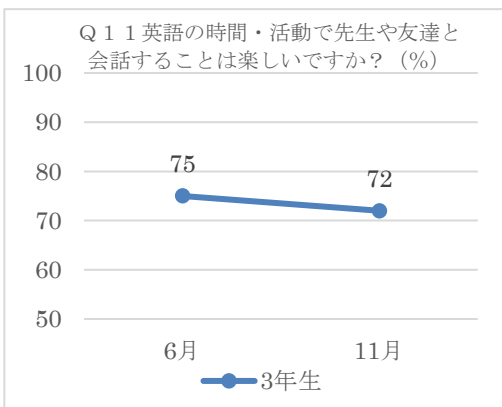
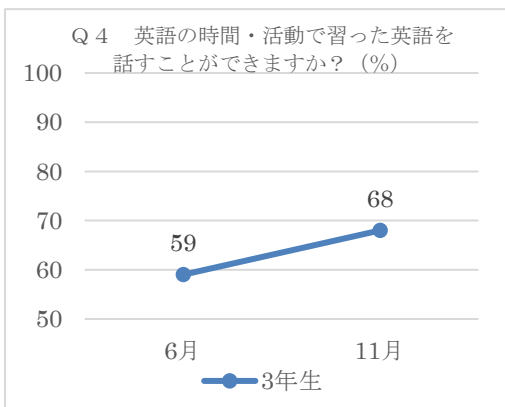
①話す

<Q 2、Q 3について>



Q 2に対しては、肯定的な回答が増加している。一方、Q 3に対しては、肯定的な回答の割合が減少している。英語に対する意欲と英語の学習に対する意欲に差がみられる。

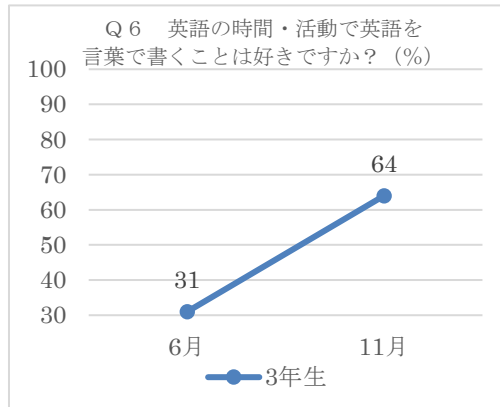
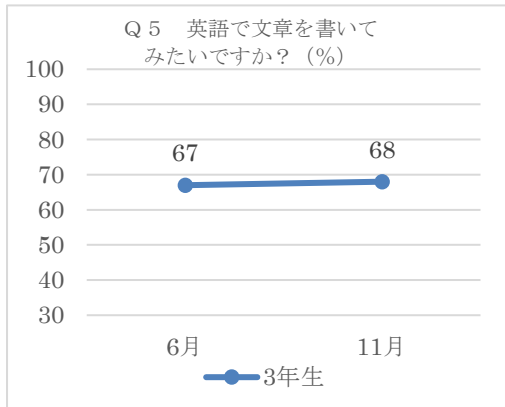
<Q 4、Q 11について>



Q 4に対して、肯定的な回答が増加していることから、技能が身につけている。Q 11に対する肯定的な回答は減少している。

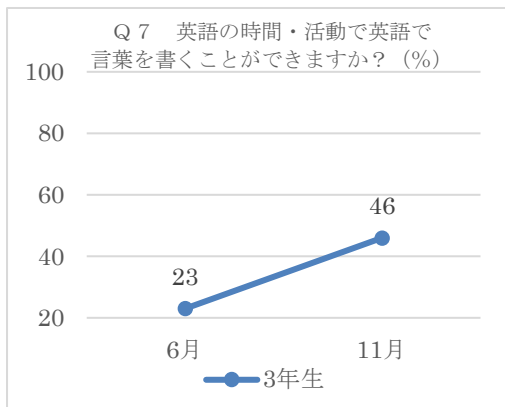
②書く

<Q 5、Q 6について>



Q 5に対して、肯定的な回答に差がなかった。一方、Q 6に対して、肯定的な回答が大幅に増加している。他教科で学習したこと（国語：ローマ字など）などから実感がもてているのではないだろうか。

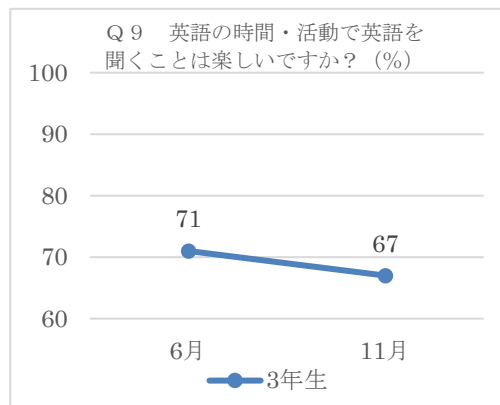
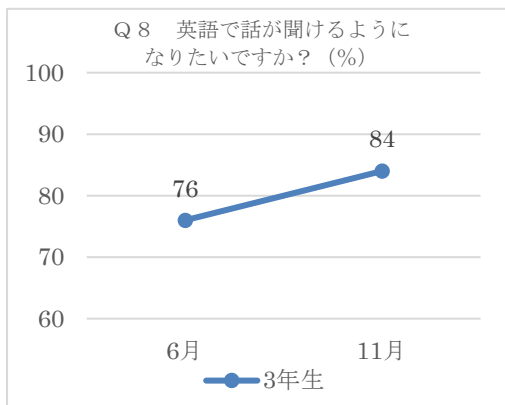
<Q 7について>



Q 7に対して、肯定的な回答が増加している。前述した通り、英語を書けるようになったと実感している児童が増えていることが分かる。

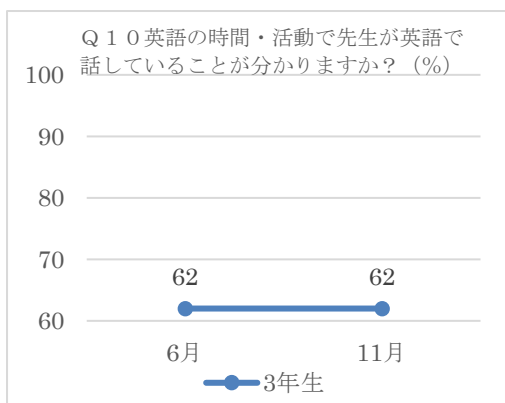
③聞く

<Q 8、Q 9について>



Q 8に対して、肯定的な回答が増加している。一方、Q 9に対しては、わずかに肯定的な回答が減少している。話すことと同様、意欲に対する差が見られる。

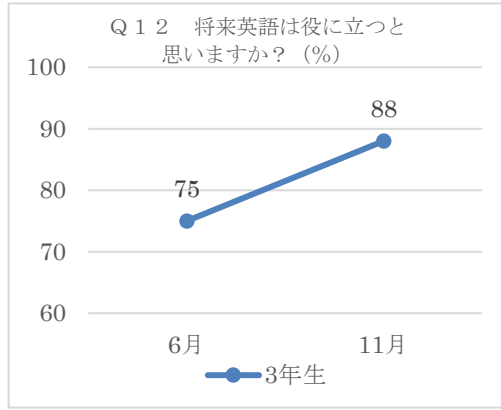
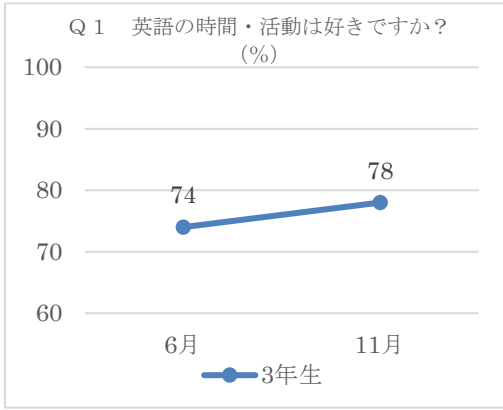
<Q 10について>



Q 10に対して、肯定的な回答が変わらなかった。このことから、外国語活動の学習で聞けるようになっているかはこの調査からは読み取ることができなかった。

④英語に対する意欲

<Q 1、Q 1 2について>



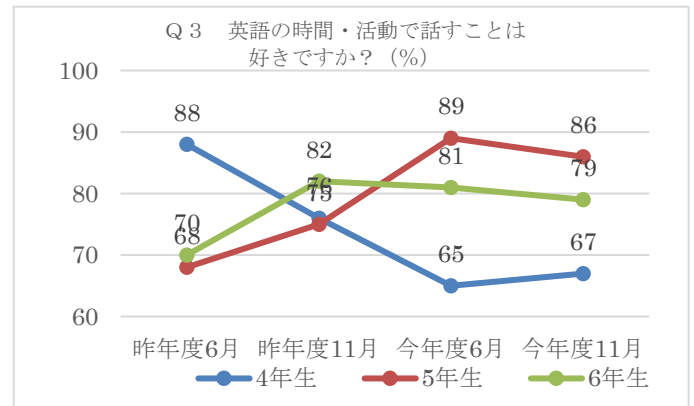
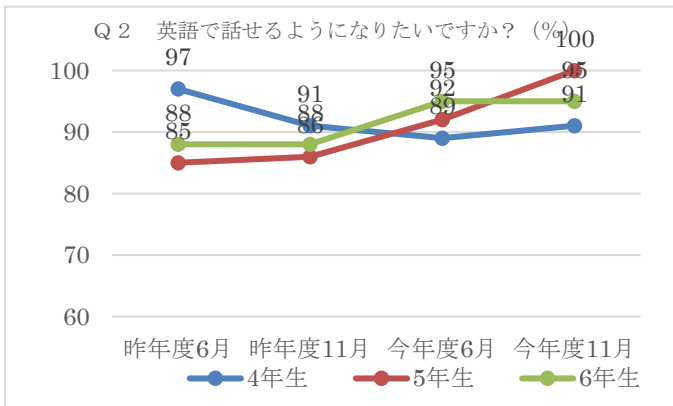
Q 1 と Q 1 2 に対し、肯定的な回答は増加している。これまでの質問から、英語の時間・活動の意欲は、英語を話したり、聞けたりすることで将来役に立つという部分の影響が大きいのではないだろうか。

石原小学校 (4年生以上)

※4年生78名、5年生70名、6年生61名

①話す

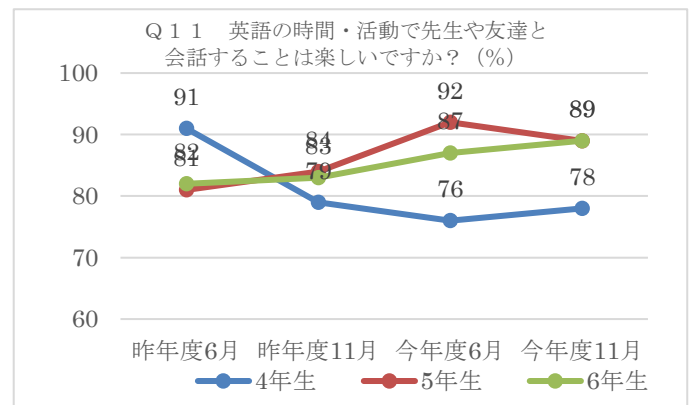
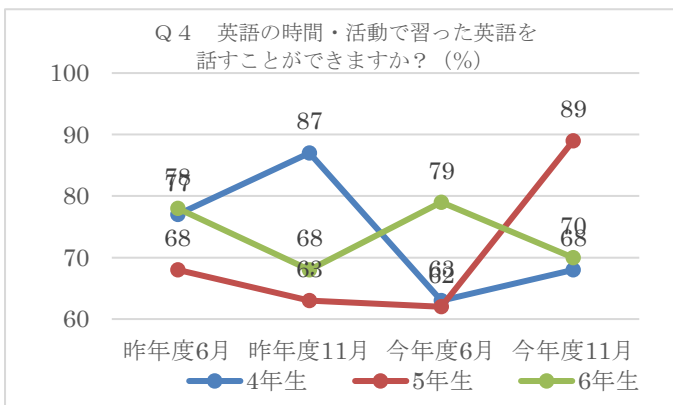
<Q 2、Q 3について>



Q 2 に対して、4年生では肯定的な回答が減少傾向にあるが、5、6年生では増加傾向にあった。

Q 2 は、Q 3 と似た推移を示している。2つの質問の推移を比較すると、外国語の時間に話すことが好きになると英語を話せるようになりたいと思う意欲につながるのではないだろうか。

<Q 4、Q 1 1について>

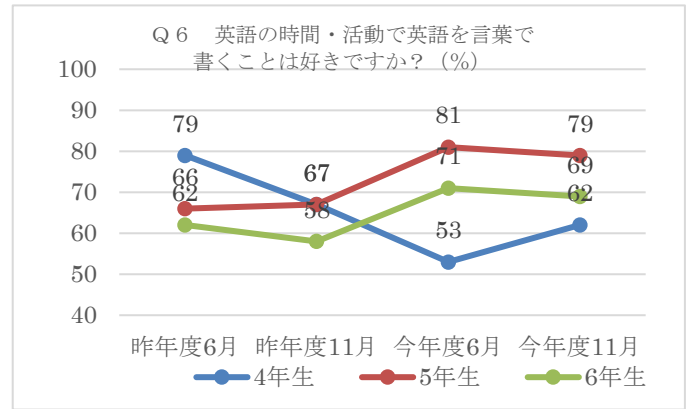
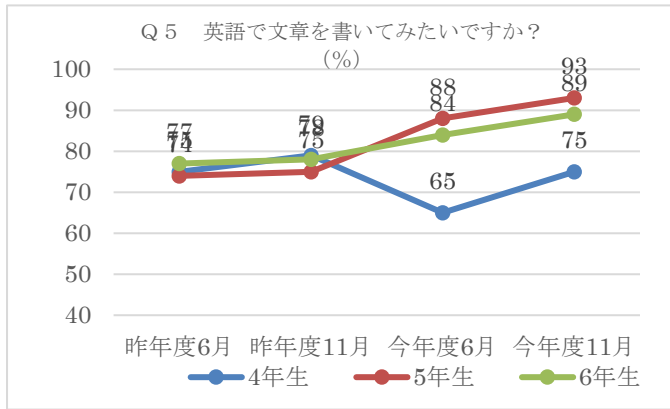


Q 4 に対しては、5年生で肯定的な回答が増加しているが、4、6年生では減少している。Q 1 1 では、5、6年生で肯定的な回答が増加し、4年生では減少している。

話すことで注目すべき点は、意欲面は肯定的な回答が増加している一方、技能面は減少していることから、外国語の意欲はできるようになる実感ではなく、他の部分からきていることが分かる。

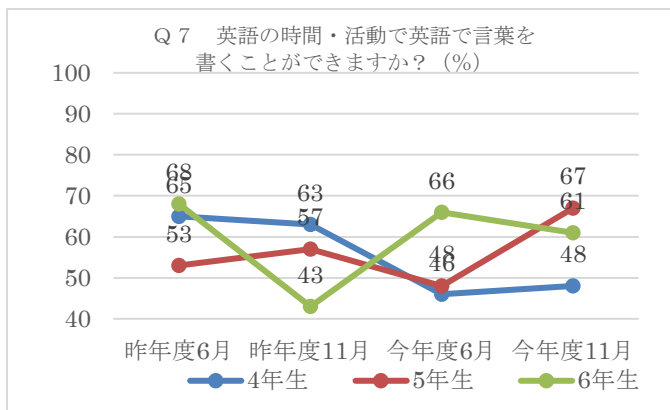
②書く

<Q 5、Q 6について>



Q 5とQ 6に対して、5、6年生では肯定的な回答が増加し、4年生ではQ 5では同じ、Q 6では減少していた。4年生の結果から好きと答える児童が減っているにも関わらず、英語で文章を書いてみたいと答える児童の割合には変化が見られなかった。このことから、書くことにおいて書くことが好きということと書いてみたいという意欲には強い関連はないのではないだろうか。

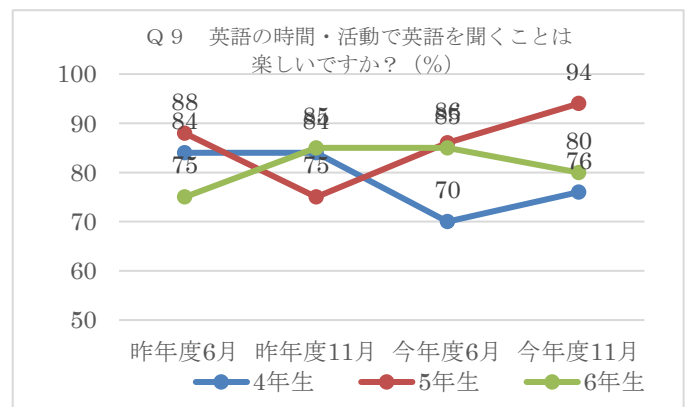
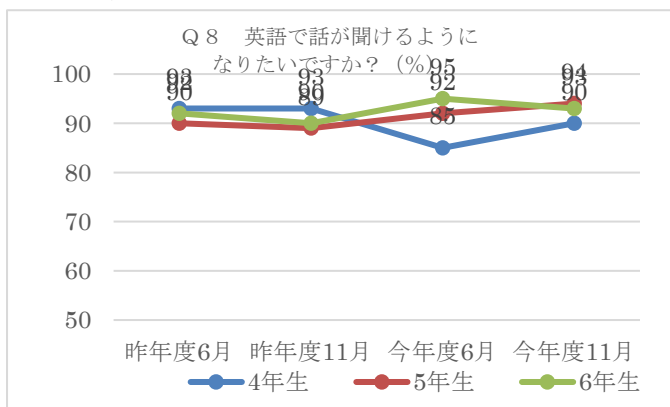
<Q 7について>



Q 7に対して、5年生では肯定的な回答が増加し、4、6年生では減少している。5年生では外国語の時間で書くことを目標とした学習が始まり自信を付けられたのではないだろうか。一方で、書くことの学習を続けてきた6年生は難しさを感じているのかもしれない。

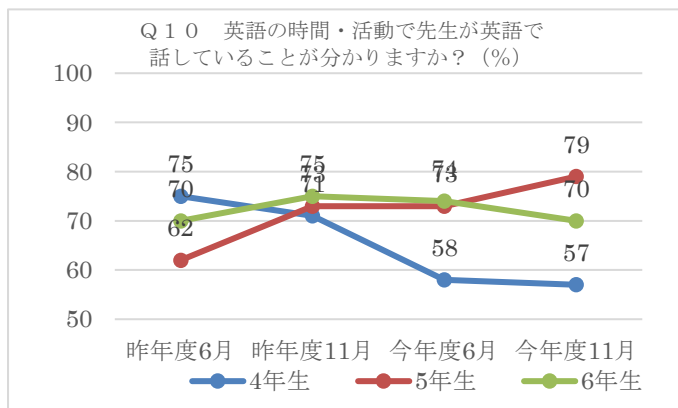
③聞く

<Q 8、Q 9について>



Q 8とQ 9に対する肯定的な回答の推移を比較すると、4年生では減少、5、6年生では増加していた。4、6年生ではQ 8とQ 9での数値に差が見られた。Q 8では高い値だが、Q 9ではQ 8よりも低い値になってしまっていることから、英語が聞けるようになりたいという意欲と結びつける学習によって、英語を聞くことを楽しいと思って学習に向かえるのではないだろうか。

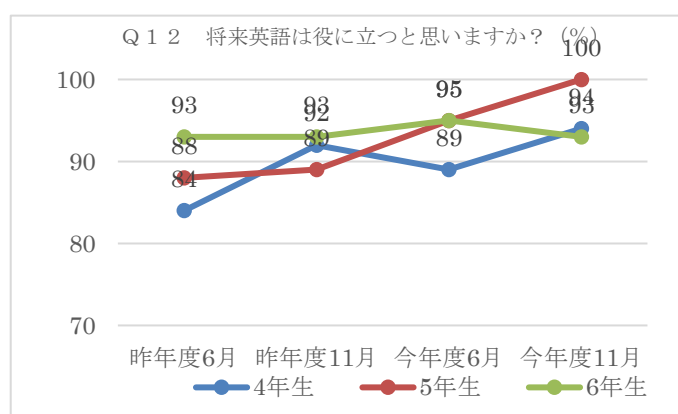
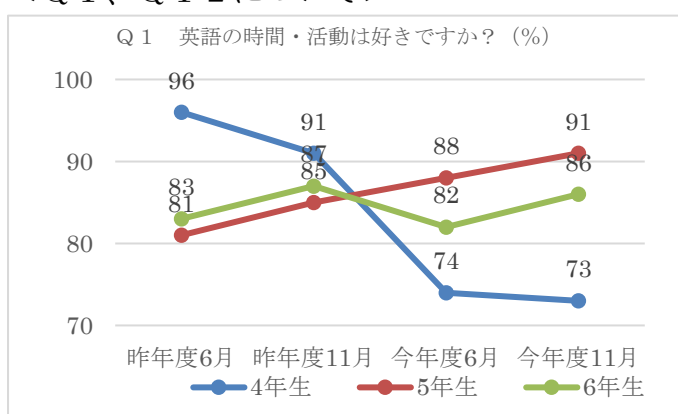
<Q10について>



Q10に対して、肯定的な回答の推移は学年間で差が見られる。外国語の学習の中で、英語で話す内容が分かるには、どのような工夫ができるのか、この推移の中から見つけていかなければならない。

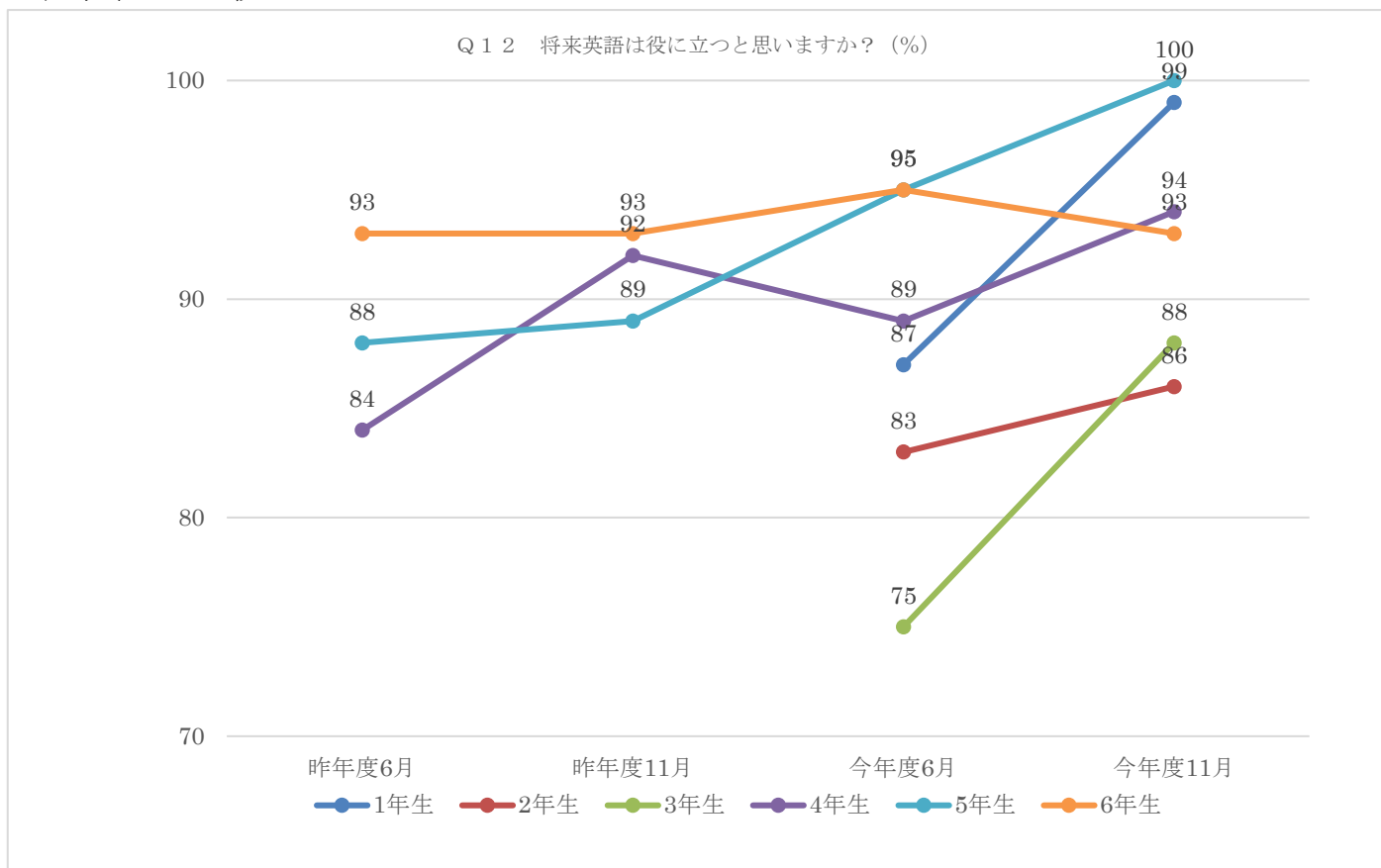
④英語に対する意欲

<Q1、Q12について>



Q1とQ12に対する肯定的な回答の推移を比較すると、Q12では同じもしくは、増加している。一方、Q1では増加している学年もあるが、減少している学年もあった。このことから、将来英語は役に立つと思いつながら外国語の学習を好きと思えず、義務感で学習しているような児童もいるのではないだろうか。

<低学年との比較>



最後に1、2年生への質問「大きくなったら英語が役に立つと思いますか?」と3年生以上への質問「将来英語は役に立つと思いますか?」に対する肯定的な回答の割合の推移を比較し、全学年の英語に対する意欲について考える。結果として、学年によって差はあるものの、おおむね増加している学年が多く、増加の見られない学年でも高い割合をキープしている。中学年間に将来英語は役に立つと考えられる何かがあるのかもしれない。そのターニングポイントは何なのかが明確になることで、英語の学習の意欲につなげることができるのではないだろうか。